

スーパーエンタープライズ

二〇一五年四月二八日 一三稿 黒澤世莉

登場人物

- サバ 高校生、バンドマン（サバエと二役）
- サバエ 高校教師、理科（サバと）
- カップ 高校生、バンドマン
- ハマー 高校生、バンドマン
- タイシユウ 高校生、サッカー部
- ヒカリ 高校生
- シャーク 用務員？、バンドマン
- トビウオ 高校生、バスケット部（サンゴと二役）
- サンゴ 高校教師、社会、サッカー部顧問（トビウオと）
- イワシタ 高校生
- クジ 高校生
- ヒジキ 高校教師、数学

時代、場所

二〇一四年から一五年と、一九八五年。日本。とある地方都市、とある高校の屋上。駅から歩いて一五分、小高い丘の上であり、遠くには小さな町が、その先には海が見える。

○場

二〇一四年四月。

トビウオがいる。遠くを見渡している。

トビウオ

（「AKO」を口ずかす）

クロマニヨンから二〇万年

夢はだいたい叶えられた

空も飛べるし海にももぐれる

奇跡のDNA

七転八倒這いつくばって

僕らの直立二足歩行

空も飛べるし海にももぐれる

奇跡のDNA

サバエ、入場。

サバエ
屋上は立入禁止だよ。

間。

サバエ
入学式、はじまつてるよ。

間。

サバエ
にゆうがくしき、はじまつ——

トビウオ
うるせえ。

サバエ
良かった。耳は聞こえてるんだね。手話で話すところだったよ、オリジナルの。

トビウオ
黙ってる。

サバエ
おいおい。先生に向かってそんな口の聞き方はないだろう。

トビウオ
入学式は。あんた出なくていいの？

サバエ
ううん。

トビウオ
行けよ。

間。

サバエ ううん。

トビウオ 行けよ。

サバエ だつて。ダルい。

トビウオ 黙つてろ。

間。

サバエ きみさ、ここオレの屋上だから、命令しないでくれる？

トビウオ あんたなんなんだよ。

サバエ サバエ。ここの卒業生。理科の先生。きみの担任。トビウオくん、よろしくね。(手を出す)

間。

サバエ こういうときに無視されると傷つくオレの名前はなんでしょう。

正解は、サバエでした。きみがここにいるかぎりこのお喋りは止まらないと思え。ここからの眺めはびつくりするくらい変わらないなあ。今日はいい天気だなあ。花見の時期は雨ばかりだったからな、晴れてよかったわ。雨の日の屋上もまた捨てがたい魅力があるんだけどね、こう、街がけぶつて見える具合とか、裏山のケヤキがフヤフヤかになったり。きつと今は自由に空も飛べるはず。そう思わない。

トビウオ 飛べるわけないし。

サバエ あれ、きみ飛べないの。ダサ。オレ飛べるよ。

トビウオ 放つておいてください。

サバエ だつてきみ、泣いてるじゃない。

間。

トビウオ 泣いてねえし。

サバエ うん。泣いてない。

間。

サバエ これから素晴らしい高校生活が始まるんだとかさ、青春時代が一番素晴らしいとかさ、部活してこつそりバイトして、そこそこに勉強して、恋をしてセックスをして、あるいは童貞のまま友達だとバカやって、文化祭で盛り上がって体育祭で盛り上がって、修学旅行で盛り上がってなんにもなくても、とりあえず盛り上がって。そういう素晴らしい高校時代がはじまる、いいね。なんて言われたりするじゃない。それが一生で一番美しい季節だなんて、誰にも言わせない。これ、ポール・ニザン。

間。

サバエ きみは無力だ、空も飛べないし授業にも出ないといけない。パンをやるう、「クリンゴンパン」だよ。名前は聞くが食べたことがない、で有名なこのパンをやすやすと買えるのはオレくらいのもんだ。

トビウオ、パンを受け取り、食べる。

サバエ オレいちおう先生だからさ、なるだけ出席してよ。

トビウオ サバエ。

サバエ いきなり呼び捨てか。いいよ、嬉しいよ、名前を呼んでくれて。なんだい？

トビウオ 誰かを裏切ったこと、ある？

間。

サバエ あるよ。

「スーパーエンタープライズ」演奏。

一場

一九八五年四月。

カッパとハマーがいる。

ハマー　それはない。絶対ない。

カッパ　いいよ。なにを賭けるよ？

ハマー　命賭ける。

カッパ　命なんかいらぬよ。もつとちっちゃい、貰ったら嬉しいし、なくしたらツライくらいのも、実感がこもったレベルのものをくれ。

ハマー　イヤだよ。

カッパ　もしかして、阪神が優勝するかもしれない、て思ってる？

ハマー　それはない。

カッパ　だったらいいじゃない。オレは阪神がダメなら、つくば万博のテレホンカードをやる。コスモ星丸だよ。

ハマー　マジか。ほんとにいいんだな。じゃ、いいよ。阪神が優勝したら、ライブで六甲おろしやるよ。

カッパ　言ったな。書くぞ。生徒手帳に書いておくからな。(書き込む)サバを説得するぞ。

ハマー　心配すんな。夏になったら最下位に沈む運命だ。

タイシユウ、入場。

タイシユウ　お前ら、またサボってるのか。

ハマー　お前だつてサボりだろ。

タイシユウ　自習だよ。サバは？

カッパ　ダッシュで消えた。

ハマー　カッパがおかしなことを言うんだ。今年は阪神が優勝するついでうんだよ。

カッパ　今年の打線はいままでと違うだろうが。
ハマー　小学生のころからそう言ってるんじゃないか。
タイシユウ　バースつてのがすごいんだろ。
カッパ　そうなんだよ。
タイシユウ　優勝するといいな。
カッパ　数学のノート貸してくれ。
タイシユウ　やだ。
カッパ　え？
タイシユウ　いいよ。
ハマー　お前いいやつだな、貧乏だけど。
タイシユウ　貧乏関係ないだろ。そういや、良かったな、ハマー。
ハマー　何にも良いことなんかねえよ。
タイシユウ　マリナちゃんと同じクラスになって。
ハマー　タイシユウ、ありがとう。(タイシユウの膝から下にタックルする)
カッパ　ふつうありがとうって言いながら膝から下にタックルしないよ。
ハマー　ラガーマンだからさ。
カッパ　ラグビーやったことないだろ。
タイシユウ　そろそろ離れて。
ハマー　一学期の目標は、マリナちゃんに話しかけること。
カッパ　低いよ、ハマー。目標が低すぎる。
ハマー　二期には名前を呼んでいただきたい。
タイシユウ　サッカー部入ればすぐだよ、マネージャーだから。
ハマー　無理無理、二年の途中からとか。
カッパ　話もできずに卒業するよりマシじゃない。
ハマー　クールだよカッパは、メンバーに向かつてよ。なぜ阪神のことに
なると冷静さを欠くのだろう。
タイシユウ　(サバが)ダッシュで消えたって、どこに？
カッパ　あっちの方。

サバ、みんなが見ている方向とは逆側から飛び出してくる。ヒカ

りの首根つこを捕まえている。

サバ よお。こいつが飛び降りようとしてたんだ。(ヒカ리를突き出す)

ハマー 自殺？

サバ ああ。

間。

サバ さあ、どうしたんだ。悩みがあるなら聞いてやる。

間。

サバ さあ。

間。

ヒカリ ……ないです。

一同 え？

ヒカリ ……飛び降りようとしてないです。

サバ じゃ、給水塔でふらふらと、何してたんだよ。

ヒカリ ……べつになにも。ぼんやりしてただけです。

サバエ なんだ。言つてよ。

ヒカリ ごめんなさい。

ハマー 言う間もなくひつつかまれたんだろ。

カップ ごめんね、こいつこういうところあるから。

タイシユウ あれ、きみ同じクラスだね。たしか、ヒカリくん。

ヒカリ はい。

タイシユウ これから一年、よろしく。(手を出す)

ヒカリ おおあう(なにやら聞こえるか聞こえないかの声を出しながら握手)

ハマー テンパリすぎだろ。

サバ (ヒカリに) オレはサバ。世界のトップに立つ男だ。

カッパ オレたち三人でバンドやっててね。

サバ 余計な説明はするな。

ハマー サインしてやろうか。

ヒカリ はい。あとで。

サバ ヒカリ、あんなところでサボるなんて、いい趣味してるじゃないか。

タイシユウ サボってるわけじゃないよ、オレら、自習。

サバ お前の夢はなんだ。

間。

カッパ こいつこういうところあるから。

サバ なぜだ、夢を語ってなぜいけない。

サンゴ、入場。

サンゴ こら。授業中だぞ。

サバ、カッパ、ハマー逃げ出すが、サバはサンゴに捕まる。カッパ、ハマー、退場。

サバ サンゴには関係ないだろ。

サンゴ 関係ないことあるか、誰が担任だと思ってるんだ。世界のトップに立つなら成績のトップも取ってくれ。

サバ 上手いこと言うじゃないか。

サンゴ お前らは？

タイシユウ オレらは自習つす。

サンゴ そうだ、一年入部希望者、五〇人越えたぞ。

タイシユウ 良かったすね。

サンゴ みんなお前みたいになりたいらしい。

タイシユウ 光栄つす。

サバ 離せよ。

サンゴ (サバを離して) ちよつと話がある。(タイシユウに) 部活前、職員室に顔出してくれ。

タイシユウ わかりました。サバ、これ、ありがとう。(サバにカセットテープを渡す)

サバ 最高だろ、RC。

タイシユウ すげえ良かった。ヒカリくん、一緒に教室戻ろう。

ヒカリ あ、でも。

タイシユウ 大丈夫だから。サンゴ先生、失礼しまーす。

サンゴ おう。

タイシユウ、ヒカリ、退場。

サンゴ オレも清志郎好きだぞ。「ぼくの好きな先生」とか。サバ、授業にはちゃんと出るよ。

サバ オレみたいなのがいたほうが、退屈しないだろ。

サンゴ お前このままだと退学になるぞ。

間。

サバ 望むところすよ。

サンゴ せめて数学はサボるな。ヒジキ先生厳しいんだから。

サバ 先生がそんなこと言っつていいんすか。

間。

サンゴ ちつぽけな街だよな。ここ。東京までも遠いし、かといつて出て

行くには便利すぎるし。ちょうどいいんだよ。適当に知ってる連中がいて、たまに知らない奴らもいて、何が面白いのかわからないけどゲラゲラ笑ったり、なにが気に入らないのかケンカしたり。

サバ　そのちっぽけさ、けっこう気に入ってる。

サンゴ　そうか。

サバ　踏み台にはちょうどいい。オレはここを踏み台にして、大冒険の末、トップに立つ。世界を愛と平和に染めて、二七歳で死ぬ。高校なんか関係ねっす。

サンゴ　お前は勉強も出来るし人徳もある、ロックだけじゃなくて、勉強したっていいじゃないか。

サバ　ライブ来いよ。来週あるから。

間。

サンゴ　オレは若いころ、サッカーワールドカップで優勝するのが夢だった。冬の国立で優勝して、天皇杯で優勝して、そして世界一になる。

サバ　無視か。

サンゴ　知ってるか、ワールドカップ。

サバ　オリンピックみたいなもんですか。

サンゴ　そう、まあ、サッカーのオリンピックみたいなもんだ。

サバ　ロマンチックつすね。

サンゴ　そうなんだよ。ロマンチックなんだよ。ロマンチックが止まらなかつたんだよ。

サバ　お、CCB。

サンゴ　まあそれで、がんばったんだけど、高校サッカーでつまづいた。オレぐらいサッカー出来るやつなんてゴロゴロいたんだな。オレより上手かったやつらも、世界じゃ全然通用しなかつた。

間。

サンゴ　でも、打ち込んだことには後悔していない。

サバ　負け惜しみっすね。

サンゴ　ライブ、行くよ。

サバ　火曜の七時っす。

サンゴ　世界を愛と平和で染めてくれ。

サバ　頼まれなくても。

サンゴ　かわりに宿題を出そう。

サバ　ずるい。

サンゴ　ちゃんと授業に出て、卒業する。簡単だろ。

問。

サバ　いいすよ。

サンゴ　よし。

サバ　ただし条件がある。

サンゴ　高飛車だな。

サバ　格好いい大人でいてください。

場。　サバ、退場。サンゴ、しばらく景色を見つめ、ため息をつき、退

二場

二〇一五年五月。

　　イワシタ、クジがいる。ロケットベルト（身につけて空を飛ぶための機械）の部品を前に作業している。

クジ　なんで触ったの。

イワシタ　手伝おうと思って。

クジ　ネジ潰れちゃってるよ。どうすんの。

イワシタ　ごめん。でも作りたいんだよ、考えるだけじゃなくて。

クジ　気持ちは分かるけど。気をつけてよね。

イワシタ　自分だつてドローン壊したじゃん。

クジ　あれはきみがパーツを無くしたんだろ。

イワシタ　どこの部品か分からんっていうから処分したんだろ。

クジ　行けると思っただけだなあ。

イワシタ　墜落したのがドローンだからいいけど、ロケットベルトはパイロット死んじゃうからね。

クジ　分かってるよ。だから、設計も作業も、丁寧に丁寧に。

イワシタ　どつちが飛ぶ？

クジ　まだ先の話じゃない。

イワシタ　トレーニング計画立てようと思つて。

クジ　バランス感覚とか運動神経つて鍛えられるの？

イワシタ　まあ、やるしかないでしょ。

クジ　もうちょっと出来そうなひとに頼んだほうがよくない？

イワシタ　二人でやろうよ。

クジ　一輪車乗れる？竹馬は？バランス感覚なんてないでしょぼくら。

きみなんかすぐバスでゲロしちゃうじゃん。ロケットベルトの操縦はもつと大変だと思うよ。

イワシタ　練習するしかないよね。

クジ　うーん。

トビウオ、入場。クジ、イワシタ、あわてて部品を隠そうとする。

トビウオ　ちゅーす。天文同好会の部屋つてこつちですかね。

イワシタ　はい。

トビウオ　なにやってんの？

イワシタ　なんでもないです。なんでもないです。

トビウオ　なんでもないことないでしょう。(部品を見つけて) なに、これ。

イワシタとクジ、目を合わもじもじする。間。

イワシタ 屋上は天文同好会以外入っちゃいけないんだよ。

クジ バレたらまずいんじゃないかな。

トビウオ 午後の授業に望遠鏡持って来いって先生が。なに、これ？カッコ

いいね。

イワシタ 部品。

トビウオ うん。そうだよ。何の？

イワシタ ロケットベルト。

トビウオ ロケットベルト？

イワシタ 空飛ぶ機械。

トビウオ これが？へえ、すげえ。どうやって飛ぶんだ？

イワシタ 背負う。

クジ エンジン付きのリュックみたいなにつけて。

トビウオ バカじゃないの。エンジンを背負って飛ぶの？

間。

トビウオ 超クールじゃん。

イワシタ ああ、うん。

トビウオ どうしたの、これ。

間。

イワシタ (クジに) どうする。

クジ (イワシタに) どうしよう。

イワシタ (クジに) どうしようって、どうしよう。

トビウオ なに。教えてよ。だめ？

イワシタ 興味あるの？

トビウオ あるよ。

イワシタ 誰にも言わない？

トビウオ いいよ。なんで？

クジ ぼくたちまじめにやってるから、邪魔されたくない。

トビウオ オレ邪魔してる？

クジ そうじゃなくて、面白半分でからんでくるひとたちいるから。

トビウオ ああ、そういうことか。ええ、教えたってよくない？けっこうすげえってなる気がするけど。

間。

トビウオ 分かった、秘密にするよ。

イワシタ 作ってる。ぼくが設計して、部品を用意して、こっちが組み立てて。

トビウオ 自分たちで作ってる？

クジ そうだよ。悪い？

トビウオ お前らすごいな。すごいよ。

クジ あ、おお。

イワシタ ありがとう。

トビウオ 天文同好会のみんなで作ってるの？

イワシタ うん。

クジ みんなって、天文同好会はぼくたち二人だけだけど。

イワシタ うん。

トビウオ お金かかるんじゃない？同好会の予算でできるの？

イワシタ そのへんはまあほら、なにかとアレだから。

トビウオ すげえなあ。オレも空飛んでみたいわ。

間。

クジ きみほんとに興味あるの？

トビウオ あるよ。

クジ きみ一輪車乗れる？竹馬は？

トビウオ え、小学生のときは乗れたけど。

クジ 体育の成績は？

トビウオ 五。いや、ふつうくらいだよ、運動神経とか。

クジ ぼくらの中で普通は一、上出来は二。五は神クラス。部活は？

トビウオ バスケ部。

クジ 玉乗りは？

トビウオ 玉乗りって、サーカスとかの？やったことないけど、練習すれば出来るんじゃないかな。それ、空飛ぶのとなんか関係あるの？

クジ バランス感覚が重要なんだ。乗り物には強い？

トビウオ バスで酔ったりはしたくない。

間。

イワシタ どうするつもり。

クジ 頼んでみようよ。

イワシタ でも。

クジ ダメ元じゃん。それに、三人いれば部に来るよ。

間。

トビウオ 機械も天文学も詳しいわけじゃないけど、真剣に空を飛んでみた
い。

間。

イワシタ 本当に興味あるならさ、歓迎するよ。

トビウオ 本当？ありがとう。

クジ バスケ部はどうするの？

トビウオ 掛け持ちだめなの？

イワシタ　もちろん、大丈夫。来られるときに来てくれれば。
トビウオ　やるからにはちゃんとやるよ。

クジ　放課後部室に来て、入部届書いて。
トビウオ　分かった。けどこれさ、天文同好会の活動と関係なくない？
クジ　しつ。

イワシタ　好きなことさせてもらってる。

トビウオ　顧問は誰なの？

イワシタ　サバエ先生。

トビウオ　マジか。

イワシタ　嫌い？

トビウオ　嫌い。

イワシタ　いい顧問だよ。

クジ　放任でね。

トビウオ　やっぱやめようかな。

クジ　顔出さないから。たぶん。ええと。名前なんだっけ。

イワシタ　部長のイワシタです。

クジ　副部長のクジです。

トビウオ　新入りのトビウオです。これからよろしく願います。

三場

一九八五年五月。

カップとヒカリがいる。

カップ　はじめてだったのか。

ヒカリ　うん。恥ずかしいよ。

カップ　いいんだよ、はじめは誰だっちはじめてなんだから。それで、ど

うだった？

ヒカリ　うん。すごく興奮した。

カップ　だよな。

ヒカリ　ごめんなさい、最初はそんな期待してなかったんだ。生だからって大したこと無いって思ってた。

カッパ　でも、生は最高だったろ。

ヒカリ　うん。すごくハマりそう。

カッパ　また一緒に行こうぜ。

ヒカリ　ぼくでよければ、ぜひ。

カッパ　サバたちには絶対に言うなよ。

ヒカリ　ごめんなさい。じゃあまた連れてってね。ナイトー。

カッパ　バースのホームランが観られるなんて、お前はついてるよ。

サバ、入場。

サバ　見ろ、食べればどんな願いも一つだけかなうという、まぼろしの

「ミスター・スポックパン」を。

カッパ、ヒカリ　おお。

サバ　しかも三つだ。

カッパ、ヒカリ　すげえ。

三人、もぐもぐ食べる。

ヒカリ　味は普通だね。

サバ　おい。

ヒカリ　ごめんなさい。

カッパ　どこがミスター・スポックなんだ？

間。

ヒカリ　耳？

間。

サバ、カッパ

ああ。

ヒジキ、入場。

ヒジキ (サバをみつめて) よう。

サバ なんすか。

ヒジキ お前、来週、三日間停学ね。

間。

サバ リハに身が入るな。

ヒジキ (サバをどつく) さすが新人類。自宅謹慎に決まってるだろ。

サバ 暴力反対。

ヒジキ そういうことは社会のルールを守ってから言えよ。つくば万博でロケットベルトを無断借用するなんて、停学で済んでありがたいと思えよ。

サバ そのルールは誰が決めたんだ。

ヒジキ ルールは誰が決めたかなんて問題じゃない。あるルールは守らないといけない、てことだ。車がみんな好き勝手運転して、信号を守らなかったらどうなるよ。危ないだろ。

サバ ルールを守ったやつらが、戦争を起こしたんじゃないのかよ。

間。

ヒジキ さすが新人類。そういう格好いいことは、自分勝手にやりたいことやるときの言い訳以外で聞きたいね。停学あけたら、心を入れ替えて授業に出ろよ。

ヒジキ、退場。

カッパ うざったいの極地だな。

ヒカリ ヒジキ先生はなんでああいう言い方をするんだろうね。

カッパ ストレスを高校生に向けて発散する。ああはなりたくないね。

ヒカリ てか、サバくん、ロケットベルトで飛んだの？

カッパ いや、結局飛ぶ前に捕まったらしい。だよな？

間。

サバ ごめん、寝てた。

カッパ リハどうすんだよ。

サバ やるに決まってるだろ。

カッパ ヒジキは陰険だ、バレたらヤバイ。

サバ 授業に出るか。難しい要求だぜ。

ヒカリ ごめんなさい、こんな簡単なことできないようじゃ生きていけないよ。

サバ 世の中には二種類の人間がいる。決められた時間に決められた場

所に行くことが出来る人間と、自由な人間だ。

カッパ サボりたいってことか。

サバエ オレは、自由に生きたい。

間。

ヒカリ 自由って、誰かのために使ったほうがかつこいい言葉だね。

ハマー、泣きながら入場。

ハマー サバ、たすけてー。どうしてもマリナちゃんと付き合いたいよう。

カッパ 告白は？呼び出したんだろ？

間。

ハマー　いぎとなつたら勇気が出なかつたー。

カップ　好きですつて言うだけじゃんか。

ハマー　そんなこと言うくらいなら、マリナちゃんの目の前で二四時間、ベース弾いてるほうがマシだ。

サバ　情けないやつめ。

ハマー　ヘルプミー。

カップ　一七歳にしてこの街でもつとも阪神タイガースに造詣が深く、女の生態を知っているオレが、宇宙の神秘を教えてやろう。ハマー、今日の失敗はなぜ起こつたんだと思う。

ハマー　オレの勇気が足りないばかりに。

カップ　違う。いいか、女の子と一对一の状況っていうのは、誰にだってハードルが高いんだ。まして好きな相手だと余計に緊張してしまう。これは上級者向け、オレに言わせれば素人のやり口だな。

サバ　ストレートが一番伝わるんだよ。

カップ　まあ待て、サバのやりかたにケチをつけてるんじゃないんだ。直球が投げられる奴は直球を投げればいい。だけどな、それが苦手なやつもいるんだつてことだよ。苦手なやつには苦手なやつなりのラブゲーム攻略法つてもんがある。まず人間が誰かを好きになるためには、ドキドキする状況を共有するのが手っ取り早い。人間ドキドキすると「これ、恋かも。このひと、好きかも」て勘違いするように出来ているんだ。これを「吊り橋効果」という。

一同　おおー。

カップ　だから簡単な話、マリナちゃんと二人でドキドキするようなシチュエーションになればいい。

ハマー　それは無理だよ、ドラゴンボールを集めるほうがマシだ。

ヒカリ　そしたら、マリナちゃんと付きあわせてください、で解決だね。

カップ　現実を見る。作戦だ。適当な口実でマリナちゃんを呼び出す。街中がいいな、駅前の噴水あたりにしよう。そこでチンピラが声をかける。これがオレとサバだ。

サバ　いいね。そこをハマーが助けに入るわけだ。いいねいいね。

ハマー 無理だよ。そんなこと出来ないよ。

ヒカリ 絶対バレると思うけど。

カッパ 私服着てサングラスかけりやバレないって。

ハマー もう話しかけるとかが無理。

カッパ マリナちゃんをライブに呼べばいいじゃん。

ハマー 無理。

サバ よし、リハだ。お前らがチンピラをやれ、おれがマリナちゃんをやってやろう。

ハマー やだ。やだってどうか、無理。

サバ お前は無理無理ばかりだ。好きな女に好きって言わないで、付き合えると思ってるのか？ だいたい最近お前ら練習に身が入ってないんだよ。

カッパ え、オレも？

サバ 阪神の試合とバンドの練習と、どっちが大事なんだよ。昨日のサボりだつて、ナイターだろ。

カッパ やっぱバレてた？

サバ バンドのためにやるんだ。うまくいけばバンドに集中出来るだろ。

問。

ハマー やる。

カッパ じゃあ、ここは噴水の前、マリナちゃんが立ってます。

問。

サバ るるるん。ハマーくん、遅いなあ。

ハマー るるるんとか言わないぞ。

カッパ ここは様子を見よう。そこで、チンピラがマリナちゃんに近づいてきます。下つ端が話しかけます。

問。

ヒカリ あ、ぼくですか。
カップ そうだよ。

間。

ヒカリ こんにちは。
カップ 待った待った。ヒカリくん、きみは誰だ。
ヒカリ チンピラ。
カップ ふだんいじめられてるんだから、いじめてるやつイメージでやれよ。

ヒカリ はつきり言われると意外とキズつかないもんだね。

カップ じゃあ、もう一回。

サバ るるん。ハマーくん、遅いなあ。

ヒカリ 脱げよ。

カップ 待った待った。ヒカリくん、飛びすぎ。

ヒカリ ふだんやられてるイメージでやったんだけど。

カップ 反省しちゃったもん。ごめんね、変なことやらせて。その中間くらいのないの。

ヒカリ ごめんなさい。やってみます。おねーちゃんさあ、お小遣いもつてない。

サバ、ヒカリをどつく。ヒカリ倒れる。

カップ サバ。お前は今誰だ。

サバ マリナちゃん。マリナちゃんだつて、カチンときたら手が出るだろ。

カップ いいよいいよ。次から気をつけよう。じゃあ、もう一回。ヒカリ大丈夫？

ヒカリ ごめんなさい、大丈夫です。おねーちゃんさあ、お小遣いもつて

ない。

カップパ

遊んでくれたって、いいんだぜ。

ハマー、ヒカ리를どつく。ヒカリ倒れる。

カップパ

マリナちゃん。これどう思う？

サバ

こわい。

カップパ

ハマー、無言で殴るのはだめだ。ていうか、殴るのはだめだ。

ハマー

つい手が。

カップパ

いいよいいよ。次から気をつけよう。じゃあ、もう一回。ヒカリ

大丈夫？

ごめんなさい、大丈夫です。おねーちゃんさあ、お小遣いもつて

ない。

カップパ

遊んでくれたって、いいんだぜ。

ハマー

やめたまえ。

ヒカリ

ごめんなさい、やめます。

カップパ

ストップストップ。マリナちゃん。ドキドキした？

サバ

しない。

カップパ

ヒカリ、がんばろう。

サバ

出来るよ、ヒカリ。

カップパ

がんばって。

間。

ハマー

やめたまえ。

サバ

ああ、ハマーくん。

ヒカリ

おえー、あだ、ああ。あにいつてんだおら。

カップパ

何言ってるのか分からねーって顔してるけどな、オレだって分か

らねえんだよ。

サバ

ハマーくん、こわい。

ヒカリ　　ごら、ごめ、いてこまずぞ。

ハマー　　何言ってるのか分かりませんが、はじめてのデートなんで見逃しててください。

ヒカリ　　あーぎ、おぎさけんなよ、ごらお。

カッパ　　こうなったらオレも手を付けられないからな。

ハマー　　マリナちゃん、行こう。

サバ　　うん。

カッパ　　おい、逃げんのかよ。

ハマー　　逃げるよ。

ヒカリ　　あげごら。

タイシユウ入場。ヒカリがサバの手をつかむと、ハマーはヒカリを突き飛ばす。タイシユウそれを見て割って入る。

ハマー　　その薄汚い手を、離せっ。

タイシユウ　　何やってんだよ。

ヒカリ　　ごめんなさい、違うんです。

タイシユウ　　何が違うの？

カッパ　　いいじゃん。マリナちゃんどうでした。

サバ　　ちよつと変な気分になった。

ハマー　　オレ、いけそうな気がするよ。

カッパ　　よし。じゃあさっそく呼びだそう。

ハマー　　お前らサンキューな。バカ、ついて来るなよ。

カッパ　　遠慮すんなよ。

ハマー、カッパ、サバ、退場。

ヒカリ　　ちよつと遊んでただけ。

タイシユウ　　それならいいけど。

ヒカリ　　ごめんなさい、心配かけて。

タイシユウ あと、ごめんなさいって言うの、やめなよ。

ヒカリ ごめんなさい。あ、ごめんなさい。

タイシユウ ほら。

ヒカリ ほんとだね。

タイシユウ 変わったよね、ヒカrikun。

ヒカリ そうかな。

タイシユウ 前はこんな顔してたよ。(ひきつった顔をする)

ヒカリ ははは。誰？

タイシユウ きみ。

サンゴ、入場。

サンゴ よう。

タイシユウ ちつす。

ヒカリ こんにちは。

間。

サンゴ 暑いな、今日は。

タイシユウ はい。

サンゴ タイシユウ。例の話、本気なんだな。

タイシユウ はい。

サンゴ 考えなおさないか。

間。

タイシユウ 先生は、やっぱり反対なんですな。

サンゴ オレは応援してやりたいと思ってる。若いうちはなんにでも挑戦するべきだ。ただ、あせると上手くいくものも上手くいかなくなる。高校を卒業してからでも遅くない。

タイシュウ 早くお袋を楽しんでやりたいんです。

サンゴ その気持は分かるが、行けば必ず仕事になるわけじゃないだろう？

タイシュウ それは、もちろんそうです。

サンゴ 万が一怪我でもしたらどうするんだ。高校中退で働くのは大変だぞ。卒業してからだって間に合うじゃないか。

タイシュウ 呼んでくれてるのは今なんですよ。

サンゴ だが今年中に行くなんて無茶だ、新聞配達だけで貯まる額じゃないぞ。お前に実力があれば、必ずチャンスは回ってくる。お前はまだ若い。そうあせるなよ。

タイシュウ 海外は一〇代のプロ選手がいっぱいいます。もちろん、今の自分が至っていないのは分かっています。分かっているから、早く向こうに行って、揉まれて、自分を鍛えたいんです。

サンゴ 高校サッカーでも、まだまだやることはある。みんなで国立に行つて優勝しよう、つて約束したじゃないか。

間。

サンゴ チームを裏切るのか。

タイシュウ それは。

間。

ヒカリ 裏切りなんですか。自分の夢を追いかけることつて、裏切りになるんですか。

間。

サンゴ ヒカリくん。夢を追いかけることはいい。でも実力があるやつは、その分責任も重くなるんだ。裏切りは言いすぎだな、すまん。

間。

サンゴ　　オレが言いたいのは、高校はちゃんと出るよってことだ。また話そう。な。

サンゴ、退場。

ヒカリ　　タイシユウくん、学校やめて外国行くの？

間。

タイシユウ　　ユースチームでイタリア遠征したとき、すごく良くしてくれたコーチがいて。そのひとは連絡取ってて、来シーズンぜひ来いって言ってくれてる。

ヒカリ　　すごいね。

間。

タイシユウ　　サッカーなんかやったって、仕事にならない。サラリーマンの生涯賃金は一億円だ。それより稼げるのは世界中でも一握り。そもそもプロになれるかどうかも分からない。そう思ってるみんなの期待を裏切るのは、痛快だと思ふよ。だけどなあ。

ヒカリ　　なんかもう、違うね。

タイシユウ　　違わないよ。何かやりたいことあるだろ。

ヒカリ　　ぼくは無理だよ。才能もないし。

タイシユウ　　オレだつてそうだよ。才能なんか無い。だから毎日必死だよ。ヒカリくんが本気出したら、すごいことが出来ると思う。

ヒカリ　　応援するよ。ぼくに何が出来るか分からないけど、応援する。

タイシユウ　　ありがとう。

四場

二〇一五年七月。

サバエ、トビウオ、イワシタ、クジがいる。ロケットベルトを見ている。

トビウオ 乾燥重量五〇キロ、燃料タンク三〇リットル。燃料は八〇パーセント過酸化水素水。窒素ガスで触媒に吹きつけて、反応熱で気化膨張させて推進力にする。

サバエ ヲアルター機関か。

トビウオ さすが、理科の先生。

サバエ バカにしてるな。流行ったんだぞ、オレが高校生のころ。ロスオリンピックつていうのがあつてな、その開会式でロケットベルトをつけたパイロットが飛んだんだ。人間が空を飛ぶ時代が来たって思った。それで、つくば万博つていうイベントがあつてな。ロケットベルトのデモンストレーションがあるつてんで、オレの友だちが行ったんだ。こつそり飛ぼうとして、直前で捕まつて大騒ぎになった。

トビウオ それあんただろ。

サバエ なぜ分かった。

トビウオ よく教師になれたな。

サバエ なつかしいな。よく出来た模型だ。

トビウオ 本物だよ。

サバエ え？

トビウオ 本物のヴォアルター機関のロケットベルトだよ。イワシタが中心になつて作ってるんだ。パイロットはオレがやる予定。

サバエ 作つただと？

問。

トビウオ　なんだよ。悪いのかよ。

間。

サバエ　きみたち、すげえな。すげえよ。トビウオ、きみ空なんか飛べねえつつつたら、本気で飛ぶつもりなんだな。

トビウオ　お、おお。

サバエ　コンテストとかに出そうぜ。あるだろ、ロボットコンテストみたいな。

トビウオ　ないよ。

サバエ　ないか。残念だったな。

トビウオ　あきらめるの早すぎ。

サバエ　それで、お願いってなんだよ。オレに出来ることならなんでも言うってくれ。

トビウオ、イワシタ、クジ、もぞもぞしてから、イワシタが出てきて、サバエにタブレットを渡す。

イワシタ　天文部部長のイワシタです。

サバエ　知ってるよ。

イワシタ　このたびは大変貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。

サバエ　どういたしまして。

イワシタ　ぼくたち天文部は、これまで本校七〇年の歴史の中、途切れること無く宇宙への探究心を持ち、活動してきました。三〇年前には天文部連盟における甲子園的位置づけの――

サバエ　ちよつと待った。そういうのはいいから、本題を言ってくれ。

イワシタ　あ、はい。本題。はい。

間。

イワシタ　では五ページ目をご覧ください。あ、指で横にこうシュツと、サバエ　知ってるよ。

イワシタ　失礼しました。本日のご提案は、過酸化水素水の代理購入依頼です。ロケットベルトの燃料は、高濃度の過酸化水素水です。ぼくたち高校生が購入するのは難しいので、サバエ先生のお力をお借りしたく参上しました。

問。

サバエ　過酸化水素水が劇薬だって、知ってるか。

イワシタ　次のページをご覧ください。高濃度の過酸化水素水は、人間を溶かすほどの溶解力があり、また爆発しやすい性質もあります。簡単にいえば、とにかくヤバイです。

サバエ　教師が生徒に、そんなもの買ってやれるわけないだろう。

イワシタ　次のページをご覧ください。そこで、毒物劇物取扱責任者の試験を受けました。三人とも合格しています。危険物の取り扱いは心得ています。

サバエ　それなら安心だな。だけど、どうやって買うんだ。

イワシタ　次のページをご覧ください。サバエ先生も理工学部のご出身なので、危険物取り扱いの資格はお持ちです。化学薬品会社に、教育指導用途で問い合わせれば購入可能です。

サバエ　はい。だが、一教師の薄給じゃプレゼントというわけにはいかないな。

イワシタ　次のページをご覧ください。予算に関しては、天文部の部費で賄うことが可能です。領収書をいただければ、部内で処理いたします。また次のページでは、ご提案を受けていただいた場合、二年生全体の理科の成績向上をお約束します。天文部が総力を上げて副読本を作成します。トビウオくんが中心となって、各クラスの理科が苦手なみなさんを重点的にフォローします。一年修了時と比較して、平均二割の成績アップを目標にします。もともと同じレベルの他校とくらべて、理科の成績が低いので、現実的な目標だと考えています。

間。

サバエ　　いいよ。

イワシタ　え？

トビウオ　え？

サバエ　　いいよ。

トビウオ　いいの？

サバエ　　ダメなの？

トビウオ　いいよいいよ、むしろいいよ。

サバエ　　ただし条件がある。ケガには気をつけてね。

トビウオ　分かった。サバエ。ありがとう。

イワシタ、クジ　　ありがとうございます。

サバエ、退場。トビウオ、イワシタ、クジ、歓声を上げる。

イワシタ　めっちゃ緊張した。

クジ　　イワシタの作戦通りだったね。

イワシタ　死ぬかと思った。

トビウオ　おおげさだな。よくやったよイワシタ。

イワシタ　トビウオくんがサバエ先生の性格教えてくれたから。

トビウオ　いやー資格の勉強した甲斐あったわ。

クジ　　やつぱり資格は効くよね。

イワシタ　これで予定通り、夏休み明けにはエンジンの試験運転までいけそ

うだね。

トビウオ　じゃあ、今日もバランストレーニング、行くぞ。

クジ　　あれぼくもやらなきゃダメ？

トビウオ　当たり前だろ。三人で飛ぶんだよ。

クジ　　いやそれ比喩だし、ぼくエンジニアだし。

イワシタ　パイロットの苦勞を知るのも、エンジニアの務めだよ。

クジ　　納得いかないけど。

トビウオ　だって、お前ら、ちゃんと成長してるじゃん。ほら、五キロラン、最初一時間超えてたのに、最近は切ってるし。

クジ　トビウオくんの倍かかってるけどね。

イワシタ　でも、ちよつとずつ記録が伸びてるの、けっこううれしいもんだね。

クジ　うわー、ぼくよりちよつとマシだからって。

イワシタ　クジもがんばればもつと伸びるから。ほら、行くぞ。

イワシタ、クジ、トビウオ、退場。

五場

一九八五年七月。

ハマーとシャークがいる。シャークは掃除をしている。

ハマー　シャークさん、なんとかありませんかね。このまま阪神が優勝するの、指をくわえて眺めてるしかないんですかね。オレはライブで、六甲おろしをやらなきゃならないんですかね。甲子園球場を爆破したら、ペナントレースもウヤムヤになりますかね。

シャーク、ポケットからビックリマンチョコを出し、ハマーに渡す。

ハマー　（開けながら）ありがとうございます。ああ憂鬱だ。あ、キラキラだ。すげえ、シャークさん、これキラキラつすよ。マリナちゃん、これ集めてるんすよ。あざす。

シャーク、不敵に笑う。

ハマー　何かを手に入れるってことは、何かを失うってことなんですかね。

ヒカリ、入場。ノートを持っている。

ハマー よう。

ヒカリ ハマーくん、いまヒマ？

ハマー 猛烈に忙しい。

ヒカリ 忙しいところ悪いんだけど、これ読んで。

ハマー (ヒカリのノートを読みながら) タイシユウサポートファンド？

ヒカリ タイシユウくんはイタリアでプロになりたい。でもお金がない。

だから、ぼくたちが支えてあげられないかなと思つて。

ハマー ファンドって何？

ヒカリ お金を集めて何かするってことなんだけど、ま、簡単に言ったらカンパかな。

ハマー カンパね、いいじゃん。いくら？一〇万？二〇万？

ヒカリ 二〇〇万円。

ハマー 二〇〇万円。二〇〇万円。二〇〇万円。

シャーク、ハマーからノートを受け取つて、読む。

ヒカリ うん、突拍子もないよね。でも、冷静に考えてみてよ。この学校に千人の生徒がいるでしょ。タイシユウくんはサッカー部のエースだし、人気があるから、仮に四〇パーセントの生徒は協力してくれたとして、四〇〇人。四〇〇人が五〇〇〇円、はちよつと難しいけど、一〇人が五万円、四〇人が一万円、三五〇人が三〇〇〇円出してくれたら。一九五万円になる。

ハマー へえ。

ヒカリ それに、ただのカンパじゃないんだ。これはタイシユウくんへの投資だから、成功したら利子をつけて返してもらおう。もちろん、上手くいかなかつたらゼロになつちやうけど。

ハマー 別にいいよ、見返りなんかいらねえよ。

ヒカリ タイシユウくんの性格を考えると、ただみんなからお金を貰うつ

て話だと、断られると思うんだよね。でも、ファンドだったら、ぼくらは自分の利益のためにお金を出すってことになる。それなら、受け取ってくれると思うんだよね。どうかな。

間。 シャーク、うなづく。

ハマー 全然分からねえ。

ヒカリ そっか。

ハマー 分からねえけど、オレやるよ。ヒカリ。お前、すげえな。

ヒカリ ごめんなさい。

ヒジキ、入場。

ヒジキ (ハマーに) お前ら文化祭の申請してたよな。きつたねえ字で。

ハマー 字は関係ないでしょう。

ヒジキ 丁寧に書こうって気が感じられねえんだよ。読む気を失ってあやうくゴミ箱に特急運転するところだったぞ。

ハマー 発車オーライじゃないすか。

ヒジキ お前、彼女が出来たそうじゃないか。

ハマー 先生は離婚したらしいっすね。

間。

ヒジキ さすが新人類。

ハマー いや、知らないっす。さーせん。

間。

ハマー 本当にごめんなさい。

間。

ヒジキ ダメだ。

ハマー え、何がすか。

ヒジキ お前らのバンドは、文化祭で、演奏禁止だ。

ハマー ごめんなさい、完全に当てずっぽうす、まさか凶星だとは。

ヒジキ アホかお前は。関係ねえよ。いいか、お前らは街でケンカ騒ぎを起こしてる。

ハマー いやあれは違うんすよ、ケンカじゃなくて、ちよつとしたラブゲームでして、

ヒジキ 禁止されてるアルバイトを、深夜にやつてる。てことは年をこまかしてんだな。

ハマー 違うんすよ、それには事情があつて、

ヒジキ そもそも授業に出ない。

ハマー いや、オレたち皆勤賞ですよ。

ヒジキ 教室にいないだろうが。授業受けなくて何に皆勤してるんだよ。

屋上か。屋上皆勤賞か。

ハマー よ、お上手。

ヒジキ いくらうちが自由だからってな、自由すぎるだろ。退学にならないだけありがたいと思えよ。それが、どの面下げて文化祭でコンサートだよ。

ハマー それ、関係なくないすか。オレらの態度が悪いことと、オレらがライブやることは。

ヒジキ お前それが教師に対する態度か。

ハマー、ヒジキに詰め寄るが、シャークが間に入って止める。

ヒジキ 文化祭での活動は禁止だ。分かったな。大人しくしてれば卒業させてやる。それと、ヒカリ。

ヒカリ はい。

ヒジキ 生徒の間で現金のやりとりは、どんな理由でも処分の対象だから

な。気をつけろよ。

ヒジキ、退場。

ハマー うざったい、うざったい、うざったい。

ヒカリ マジでうざったいわ。

シャーク、シガーチョコを取り出し、ハマーとヒカリに渡す。二人食べる。サバ、カップ、登場。

サバ まぼろしの「カーク船長パン」を買ってきたぞ。なんと五つだ。

ハマー サバ、ヒジキを殴りに行こう。

カップ どうしたどうした、落ち着け。

ハマー オレら文化祭でライブ禁止だとき。バイトやサボりや、あとオレとマリナちゃんの出会いの演出が、街中でのケンカ騒ぎと間違われてる。

カップ ケンカ騒ぎだったからねえ。

サバ 本気で殴ったからな。

カップ 年ごまかしてるしなあ。

ハマー とても一七歳には見えないからな。

サバ いいよいいよ、やめることねえよ、バイト。

ハマー 退学にならないだけありがたく思え、だと。

サバ 無視すりゃいいんだよ。

ハマー ヒカリのファンクもケチつけられてよ。

カップ ファンドのこと？

ハマー あれ知ってた？

ヒカリ サバくんとカップぱくんに相談した。

サバ 無視してやっちまえばいいんだよ。バレッツこない。

ハマー おれは一〇〇〇円出すつもりだったのに。

カップ 一〇〇〇円か。

ハマー 本当は二〇〇〇円な。

カッパ オレは一万出すつもりだったね。

ハマー オレは一万一〇〇〇円だすつもりだったんだよ本当は。

カッパ 本当は五〇〇〇〇円のつもりだけど。

ハマー 下がるの？

ヒカリ 無理しなくても。

ハマー 無理なんかしてねえよ、したことねえよ。

サバ お前らセコいな。オレは一〇〇万出す。

カッパ うん、それは無理だよね。

ハマー 無理だよ。

ヒカリ 無理だよ。

サバ うるさい。オレには出来る。お前ら分かってないな、倍になって返ってくるんだぞ。

ヒカリ タイシユウくんが成功したらね。

サバ 一〇〇万、二〇〇万だ。

ヒカリ 一〇月までだけど、平気？あと三ヶ月。

カッパ 一〇〇〇円にしとこうぜ。

ハマー カッパはケチくせえな。オレは一万出す。

カッパ つて言いながら、こつそり一万五〇〇〇円出すつもりだったんだよ。

サバ 一〇万だ。一〇万出すぞ、お前ら。

カッパ マジか。スタジオ代払えんのかよ。

サバ なんとかする。

ハマー そうだ、文化祭はどうすんだよ。雨が降っても、槍が降っても、試験中も、カッパがライターでサボつても、オレはがんばった。うざったいわ。

カッパ ハマーもデートでサボったでしょ。

ハマー お前みたいにライターの時間は全部NGみたいなことはしてねえよ。

カッパ 仕方ないだろ、今年優勝を逃したら次がいつになるか分からないんだぞ。

ハマー それは仕方ねえよ。違う、ライブ出来ねえって話だ。

サバ いいじゃん。

ハマー そうだよ。いいんだよ。え？

カッパ え？

ヒカリ え？

シャーク え？

サバ いまシャークさん喋った？

間。

ハマー いいの？

サバ いいじゃん。体育館で演奏しなきゃいいんだろ。
なるほど。

ハマー 全然分からねえ。

シャーク、不敵に笑う。

サバ よし、スタジオ行くぞ。

カッパ バレないようにバラけて行こう。

ハマー オレにも分かるように説明してくれよ。

「だー！」演奏。

六場

二〇一五年一〇月。

イワシタ、クジがいる。

イワシタ 遅いね。

クジ うん。

イワシタ 事故かな。

クジ それはないでしょ。なんか、下、騒がしくない？

イワシタ なんだろね。サッカー部の試合あったつけ。

クジ なんにもない日だから、飛行試験の日にしたと思うんだけど。

間。

クジ 中止にしようか。パイロットがいないんじゃないよ、しょうがないよ。

イワシタ もう少し待とうよ。

クジ もう三〇分経ってるよ。

イワシタ 絶対来るから。

クジ じゃあ、あと五分。

イワシタ あと五分。点検するか。

クジ もう二回も最終確認したよ。機械は万全。あとは燃料と、トビウ

オくんだけ。

間。トビウオ、入場。

イワシタ 遅いよ、トビウオくん。

クジ 何かあったの？

トビウオ ごめん、ちよつとね。

クジ ちよつと、どうしたのさ。事故とか？

トビウオ (校庭に) みなきーん、天文部の飛行ショーまで、もう少しお待ちください。

間。

イワシタ どういうこと？

トビウオ この半年、イワシタもクジもめっちゃがんばったじゃん。

クジ トビウオくんもね。

トビウオ　パイロット向けのトレーニングも、最後までついてきた。けつこうハードなメニュー組んだだろ。だから正直言って、途中でついて来られなくなると思ってた。オレ、ちょっと感動したんだよ。二人がハーフマラソン、一度も歩かずに完走したとき。記念すべき初飛行は、オレじゃなくてイワシタが飛ぶべきだよ。

間。

イワシタ　（校庭をさして）あのひとたちは。

トビウオ　オレが集めた。お前らのすごさを見てもらおうと思って。お前らが飛んだら、絶対、くだらないことされなくなるから。

間。

トビウオ　まず、お前らが変わるんだよ。たしかに、怖いよ。オレだって怖い、生身で飛ぶなんて。でもさ、そこを勇気出せば、絶対何かが変わると思うんだよ、イワシタの中で。クジの中で。それ絶対変えたほうがいいんだよ。早ければ早いほどいい。今変わろう。オレも応援するからさ。

クジ　余計なお世話なんだけど。

イワシタ　ちょ。

間。

トビウオ　え？

クジ　だいたい最初からトビウオくんが飛ぶって計画なんだから。計画通りに動いてもらわないと困るよ。こっちはそのつもりで準備してるのに。

トビウオ　それはごめんだけど、計画より成長のほうが大事じゃん。

クジ　計画通りやってもらうほうが全然重要だし。成長とか余計なお世話だって言ってるの分かんないかな。

トビウオ　え、だって、このままいじめられていいの？

クジ 別に飛んだっていじめ、なくならないし。え、なにそれ。ロケットベルトで空飛びました。いじめがなくなりました。そんなわけなくない？ だいたい、こんな大勢の人に見られて、飛べるわけないじゃん。ぼくたち人前に出るのだから。

トビウオ だから、それを変えるんだよ。

クジ イワシタが変えてくれて言ったの？ 言っていないでしょ？

トビウオ じゃあお前ら一生このままでもいいのかよ。

間。

トビウオ 都合が悪いとすぐ黙る。そんなんだからダメなんだよ。

イワシタ トビウオくん、ぼくらのことそう思ってたの？

トビウオ ここで飛ばなきゃ、そう思うよ。

イワシタ パイロットはトビウオくんじゃない。約束が違うんじゃない？

トビウオ そりゃオレだって一番最初に飛びたいよ。でもオレはいいんだよ、最後で。

クジ 友だちもいるし学校で上手くやれてるからって？

トビウオ そうじゃないし、そんなこと言っていないだろ。

クジ 言ってるよ。ぼくらはカースト下位だから変われ、オレは上位だから大丈夫って。

間。

トビウオ クジにオレの何が分かるの。

クジ 同じことしてんの、トビウオくんは。きみにぼくらの何が分かるの。

イワシタ ぼく、飛ぶよ。

間。

クジ 本当に？

イワシタ なんで？トレーニングしたし、大丈夫だよ。だからケンカやめてよ。

トビウオ 部長分かってるわ。

クジ イワシタさ、無理すんなよ。

間。

クジ ぼくらじゃ無理だよ、そりゃトレーニングはしたよ、したけど、ほんとかやしいけど、トビウオくんは勝てるどころなんかひとつもなかったじゃん。

イワシタ うん。でも、三人で飛ぼうって言ってたし。

クジ それは役割の話でしょ。イワシタが計画を立てる、ぼくが作業する、トビウオくんが飛ぶ。三人で飛んでるじゃない。適材適所ってやつだよ。トビウオ 実際に飛ばないと、三人で飛んだことにならないだろ。

イワシタ、ロケットベルトを背負おうと見つめる。

イワシタ ごめんなさい、やっぱり無理です。怖いです。

間。

イワシタ ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい。

クジ イワシタ、いいよあやまることないよ。トビウオくんが飛べばいいじゃない、もともとその予定だったんだから。ぼくは飛ばないからね。

イワシタ ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい。

クジ 出来ないことを無理にやるのは、勇気じゃなくて無謀だよ。

トビウオ そんなこといって、クジはずっと苦手なことから逃げんのか。

イワシタ ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい。

クジ そうだよ。

トビウオ　いま変われば、これからの人生絶対変わるって。

クジ　きみ自分が何言ってるか分かってるの？いまのイワシタ見える？これいじめだからね？きみが嫌いな。イワシタこんな風にしたのトビウオくんだよ、それ分かってる？

イワシタ　ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい。

間。

トビウオ　どうすんだよ、集まった人たちは。

クジ　さつさと飛んでさ、終わらせようよ。

トビウオ　お前らが飛ばなかったら意味ないんだよ。

クジ　あつそう。じゃあ中止だね。ぼくは絶対飛ばないから。

トビウオ　飛ばないんだったら、こんなもんあつたつてしょうがないだろ。

トビウオ、ロケットベルトを投げ、壊す。間。

クジ　ないわ。

イワシタ、クジ、退場。

七場

一九八五年一〇月。

サバとサンゴがいる。サンゴは並んでいるライブ機材を見ている。舞台二階にはヒカリがいる。ビデオカメラを配置している。

サンゴ　すごい風だな。嵐が来そうだ。

サバ　いい天気じゃないすか。

間。

サンゴ この機材、どうしたんだ。

サバ レンタルつす。

サンゴ すごいな。お金かかっただろう。

サバ バイトしたんで。

間。

サンゴ サバ。お前はバカじゃない。屋上ライブなんかやったら、どうなるか分かるだろう。

サバ 文化祭でコンサートやるな、つていう学校が、詫び入れてくるんじゃないすか。

サンゴ いますぐ片付けろ。

間。

サンゴ おかしいと思っただよ。次から次へと出前が屋上に入りしてんのは。こういうことか。

サバ オレたちは、自分たちの音をみんなに聞いてもらいたいだけだ。

終わったらすぐ片付けるし、退学になってもいい。

サンゴ 約束しただろ、卒業するつて。

サバ 先にライブを禁止したのは学校だろ。

サンゴ オレだつてかばいきれないぜ。

サバ そうか。

サンゴ なあサバ、カップとハンマーはどうなるんだ。あいつらだつて停学ですむとは限らないぞ。それ分かってるのか。

サバ トップに立つバンドのエピソードとしては、悪くない。

サンゴ トップに立てなかったときはどうするんだ。来年の文化祭では体育館でやれるようにしてやる。約束する。だから、

サバ 来年も生きてるつて言い切れる？生きてたつて、来年タイシユウ

は聞けないぜ？

間。

サンゴ 来年タイシユウが聞けないって、どういうことだ。

間。

サバ オレらが金集めて、あいつを行かせてやるんすよ。今日のライブで最後のワンプッシュして、あいつに渡す。

サンゴ いくら集まったんだ。

サバ さあ？

間。

サンゴ お前はあいつがイタリアにいつでも活躍できると思ってるのか。

サバ イエス。

サンゴ 日本人が海外で活躍するのは、無理だ。

サバ やってみたいと分らないじゃないすか。

サンゴ 「サッカーが上手いやつ」「じゃダメなんだよ。「サッカーがすごいやつ」だけなんだ、仕事にできるのは。いまのあいつはまだ、「上手いやつ」だ。

サバ サンゴは、自分のかなえられなかった夢を、冬の国立優勝つてやつを、タイシユウにかなえさせようとしてるんすね。

間。

サンゴ お前がタイシユウを応援しているのは分かるが、それが本当にあいつのためになるのか？失敗することが分かかっていて挑戦させるのは無責任じゃないか。日本でがんばって卒業してからのほうがあいつのためじゃないか？

サバ それはあいつが決めることだ。

サンゴ　オレはお前もタイシユウも、ちゃんと卒業してほしいだけなんだよ。

サバ　だから、明日死ぬかもしれないんだぜ。やりたいことやらないでどうするよ。

舞台二階からヒカリの悲鳴が聞こえる。

サバ　どうした？

ヒカリ　風に飛ばされそうになった、もう大丈夫。

サンゴ　気をつけろよ。怪我だけはするなよ。

サンゴ、退場。

ヒカリ　撮影の準備してたら、聞いちゃった。

サバ　ヒカリ、ファンドの準備はできてんだろうな。

ヒカリ　ばつちり。ポッケに入ってる。

サバ　あいつどんな顔するかな。

ヒカリ　ニヒルに笑って「ありがとう」。

サバ　オレは泣いて感激して崩れ落ちるに賭ける。「燃えよドラゴン」で号泣する小学生だったんだぞ。

ヒカリ　涙もろいんだね。

サバ　お前の夢はなんだ。

ヒカリ　え。

サバ　六年生のころからオレの夢は変わらない。お前の夢はなんだ。

間。

ヒカリ　笑わない？

サバ　笑わない。

ヒカリ　ゲームを作りたい。

サバ インベーターとかゼビウスみたいなやつか。

ヒカリ うん、そういうのもいいんだけど、もつと冒険ものっていうか。

サバ スーパーマリオか。

ヒカリ アメリカにウイザードリイっていうゲームがあつて、騎士と魔法使いが、迷宮を探検して、吸血鬼とかドラゴンと戦うんだ。

サバ 面白いのか、それ。

ヒカリ すっごい面白いよ。自分が自分じゃなくて、本当に魔法使いになつて、モンスターを倒したり、冒険してる気持ちになれる。ぼくは、これからゲームつてすごく広がると思うんだ。世界中の人が電子ゲームをやるようになる、絶対。そうしたら、すごい商売になると思うんだよ。

サバ そういうもんか。オレはバンドのほうが面白いよ。

ヒカリ サバくんはそれでいいんだよ、でも、きっとバンドもゲームになると思う。ぼくはゲームの世界のトップに立ちたい。

サバ わけが分からん。わけが分からんが、イカス。

タイシユウ、入場。

タイシユウ お邪魔かな。

サバ 屋上はみんなのものだ。

タイシユウ 立入禁止つて貼つてあるから。アンパン持つてきた。すげえ人だな。

サバ お前らの試合にくらべたら大したことない。

タイシユウ ウワサつてのはどこから流れるんだろうな。

サバ みんな退屈なんだろう。

タイシユウ サバがリーダーになつて、お金を集めてくれてるつて。

サバ なぜ分かつた。

タイシユウ お前から隠すの下手すぎなんだよ。

サバ あれはヒカリがやつてることだ。

ヒカリ リーダーはサバくんだよ。

サバ クソ、計画がパーじゃねえか。ライブ終わりに渡してびっくりりさ

せるつもりが。

タイシユウ おお、それは知らなかった。

サバ 誘導尋問か。

ヒカリ サバくん喋らないほうがいいかも。

タイシユウ 気持ちはありがたいけど、受け取れないよ。

ヒカリ そう言うと思った。ぼくたちがやってるのは、タイシユウくんに投資するファンドなんだよ。だから、あげるんじゃないやなくて、倍にして返してもらう。ただの借金と違うところは、もし上手く行かなかったら、返さなくてもいいってところかな。本当は二〇〇万円目標だったんだけど、五二万三一五三円しか集まらなかった。でも、イタリアへ行く飛行機と、当面の生活費にはなると思うんだ。どう？

ハマー、入場。

ハマー 大変だ大変だ。大嵐が来る。

サバ よけるように言ってやれ。

ハマー 分かった。よけてくれ。無理だー。

サバ おい、天気。あんまりふざけたことすると、泣くぞ。

カップ、シャーク、入場。

カップ もう真っ暗だ。中止しよう。

サバ バカ言え、やるぞ。この日のために新曲一二曲、リハーサル三日間かけたんだぞ。

ハマー レンタルだつてタダじゃねえしな。

カップ 器材が壊れたらえらいことになるぞ。

サバ オレは晴れ男だ。

カップ バカだバカだと思つてたが、筋金入りのバカだな。

ハマー 時間を早めたらいいんじゃないやねえの。嵐が来る前に終わらせるんだ。

サバ よし、はじめるか。

タイシユウ なにか手伝えること、あるかな。

サバ 下で聴いてろ。お前の世界を変えてやる。

タイシユウ 出来るもんならやってみろ。

タイシユウ、退場。

サバ 準備はいいか、セットリスト通りだ。

ハマー マリナちゃん間に合うかしら。

ヒカリ カメラ、回します。

カッパ どうなつても知らないからな。

シャーク、OKと手を挙げる。

サバ ルーフトップ・コンサート。スタート。

「小さな奇跡」演奏。突然の豪雨、途中で音が途切れる。

サバ 音が出てねえぞ。

カッパ 言わんこつちやない。

サバ なんとかしろよ。

カッパ 無理だよ、電源落ちた。

ヒカリ、一階へ移動。

サバ、カッパ、ハマー、シャーク、機材を点検してまわる。電源はつかない。やがて点検をやめ、立ち尽くす。

ヒカリ どう？

間。

サバ (校庭に) お前ら、体育館で待つてろ。(カップとハンマーに) 行くぞ。

問。

サバ ジャックするぞ。

ハンマー は？

カップ 落ち着けよ、サバ、

サバ ベンチヤーズやつてる連中を叩き出す。シャークさん、止めないでください。行くぞ。

問。

サバ お前らが来ないなら、オレ一人で行く。

カップ 待てよ。

ハンマー おい、サバ。あいつらだつて頑張つてんだよ、オレらみたいに。

サバ ライブはどうすんだよ。オーディエンスは待つてんだぞ。

ハンマー 体育館ジャックに、ラブとピースはあるのかよ。

タイシユウが入ってくる。

タイシユウ 音止まったぞ。

サバ 雨にやられた。

タイシユウ まじかよ、もつと聞きたかつたのに。

ハンマー 今日はあきらめようぜ。ライブはまた出来るよ。

カップ その前に、これどうするつもり？

ハンマー (校庭に) お前ら、悪いな、今日は解散だ。

サバ 勝手なことするな。

出て行こうとするサバを、ハンマーが止める。

ハマー オレたちバンドだろ。勝手なことすんなよ。

カップ これどうするつもりなんだって聞いているの。

サバ 乾けば直るだろ。問題ない。

ハマー 運び出そうか。

タイシユウ 手伝うよ。

ヒカリ ぼくも。

カップ むだだよ。水浸しだろ。

ハマー 弁償、かなあ。

カップ そりゃそうだろ、契約書にそう書いてある。三〇万。

ハマー 三〇万、持ってる？

カップ 持ってるわけないだろう。あ。

ハマー え、持ってた？

カップ いや、なんでもない。

ハマー え、いや、言つて。何よ。

カップ いや、タイシユウファンド、それくらいだったなあ、と思つてき。

そつから借りる？

ハマー はは、それは無いわ。

間。

ヒカリ 難しいよ。ファンドは、タイシユウくん投資してるんであつて、タイシユウくんのお金ではないもの。

ハマー 人様の金に手は付けねえよ。

カップ 人様の金つて、結局一人一万出したんだぞ。それ返してもらうだけでもいいんじゃないか。

ハマー そんなカッコ悪いこと出来ねえよ。

カップ なあ、ハマー。これから受験だぜ。借金抱えて、バイト増やして、どうすんだよ。ヒカリ、頼むよ。五〇万くらいあるんだろ？

ヒカリ だから、そういう次元の問題じゃないんだつてば。

ハマー 風邪ひくぜ、中はいろいろ。

カッパ ファンドのリーダーはサバだから。まさかヒカリの力で集まったって、思っていないよね？

ヒカリ それは、そうだけど。

カッパ サバが呼びかけたから、集まったお金なんだよ。それってサバのお金ってことじゃない。

ヒカリ 違うでしょ。

カッパ じゃあタイシユウ。

タイシユウ ヒカリくん、なんとかならないかな。

ヒカリ タイシユウくんはもつと、責任感を持つてほしいな。みんながきみみたいにチャンスを得られるわけじゃないんだよ。ヒーローの責任取つてよ。夢見させてよ。マネージャーとして、お金は出せません。

カッパ ヒカリ黙つてて。

間。

ヒカリ なんで。これ考えたのぼくなんだけど。

カッパ 死ねよ、お前。気持ち悪いんだよ。ここから飛び降りろ。

ハマー 言い過ぎだ。あやまれよ。

カッパ ちよつと優しくしてやつたらつけあがりやがつて。飛べよ。とーべ。とーべ。

タイシユウ バカ、

カッパ うるせえな偽善者。カッコつけやがつて、そんなにサッカー部が偉いのか。ちやほやされて調子乗つてんじゃねえぞ。

ハマー カッとなつただけだから。

カッパ ずつと思つてたよ。お前ら全員巨人ファンだ。

ハマー 分かつたから、カッパ。

カッパ オレの言うことも聞けよ。スタジオだつてリハの時間だつて、全部サバあわせじゃねえか。いつつもいつつも、サバは、サバは、つて。オレはサバのおまけじゃねえ。

シャーク、カッパの肩に手を置く。

カッパ　お前はなんか喋れや。

シャーク、しょんぼりする。

カッパ　クソ、あー時間無駄にした。オレは抜ける。サバが一人で払えばいいじゃねえか。良かったなヒカリ、タイシュウ、お前らの金は守られたぞ。ヒカリ　（ヒカリ、封筒を投げる）勝手にすれば。カッパくんの好きにしたらいんじゃない。

カッパがヒカリを殴ろうとするが、ハマーが止める。

カッパ　離せ。

ハマー　離さない。ラガーマンだから。

カッパ　ラグビーやったことねえだろ。

ヒカリ　このお金を自由にする権利なんて誰にもない。きみたちが使うなら使えばいいよ。ぼくは自分で働いて、出資してくれたみんなに返すから。

ハマー　やめろよやめろよ、マリナちゃんにフラれるし、嵐だし、なんなんだよ。

サバ　あー。

間。

サバ　空を飛ぶから、お前ら見てろよ。

サバ、駆け上がるが、尻込みしてしまう。

ハマー　六甲おろしを歌おう、阪神の優勝を祝って、みんなで六甲おろし

を歌おう。

ハマー六甲おろしを歌い出すが、他のみんなはうなだれて乗つかない。最初の「六甲おろしに」以降ハミング、最後の「阪神タイガース」のくだけはまた歌詞を思い出す。

八場

二〇一五年十月。

トビウオがいる。缶チューハイを飲んでいる。足元には壊れた口ケットベルト。

サバエ、入場。

サバエ きみ、何飲んでんだ。

トビウオ あんたには関係ないだろ。

サバエ そうだね。(と缶ビールを開けて飲む)

問。

サバエ いやー真っ昼間っから飲むビールは最高だな。

トビウオ いつかクビになるぞ。

サバエ オレもそう思っていたんだがな、毎日やってるが大丈夫だ。

トビウオ アル中め、早死にしろ。

サバエ 意外と長生きしちゃったんだよなあ。きみくらいのは二七歳で死ぬって息巻いてたんだ。知ってる？二七クラブ。ロックンローラーは二七で死ぬってやつ。

トビウオ どうでもいい。

問。

サバエ (まじまじとトビウオを見つつ) 思い出すな。三〇年前、ここでライブをやってたな。

トビウオ それでここ、立入禁止になったのか。

サバエ なぜ分かった。

トビウオ そんなんばつかじゃねえか。

サバエ 正確には、ライブをやるうとして、だけどな。結局トラブルで一曲も演奏できなかつた。屋外では雨が降るってことをまるで考えてなかつたんだな。アホすぎる。

トビウオ なんで屋上でやったんだよ。

サバエ 体育館が禁止されたんだって。そりゃ、オレらは優等生じゃなかつたが、文化祭から締め出すのはおかしいだろ、と。大人は自分勝手で、人の顔色ばかり伺って、カネに汚くて事なかれ主義、しょーもない生き物だっと思ってた。音楽で世界を変えてやるって思ってた。だけど、結局世界は変えられなかつた。オレはただ、いろんなひとに迷惑をかけただけ。なあ、トビウオ。お前にとって、トップに立つってなんだ？

トビウオ しらねえよ。ただの自己満足だろ。

サバエ 自己満足。そうかもなあ。

間。

サバエ イワシタとクジは部活に来るのか。

トビウオ あれ以来、来ない。

サバエ ま、そうなるわなあ。

トビウオ 謝ろうとしても無視するんだぜ。ないわ、ありや。だからダメなんだよ。

サバエ そうだそうだ、あいつらが悪い。きみは正しい。

トビウオ それは分らないけど。

サバエ きみは善意でやったんだろ？だが変わらなかつた。それじゃ、無理無理。本人に変わる気がないんだつたら仕方ない。あきらめろ。

トビウオ そうだよな。

サバエ きみは裏切られたんだろ？そんなやつら放っておけばいいんだよ。
きみを見てると、昔を思い出す。

間。

トビウオ いやだ。

サバエ え？

トビウオ いまなにか見えた気がする。

サバエ 幻覚か。若いのに不憫だな。

トビウオ とめろよ、生徒が酒飲んでんだぞ、学校で。

サバエ きみは、自由だ。命令されなくても自分で考えられるだろ。

間。トビウオ、ロケットベルトを抱えて出ていこうとする。

サバエ 手伝ってやるよ。

トビウオ は？

サバエ こう見えて手先は器用なんだよ。

トビウオ うるせえ。サバエ。ありがとう。

トビウオ、退場。

サバエ ゴミは自分で片付けろよ。(空き缶を拾う)

九場

一九八五年一二月。

ヒジキがいる。途中でサンゴが入ってきている。

ヒジキ さすが新人類のお前ら。冬休みだからって羽目はずしすぎるんじゃないぞ。先生によつては羽を伸ばせよなんていう方もいらっしやるかもし

れないが、ぼくはそんなに甘くない。人間は弱い、放っておけば水が低きに流れるように怠けてしまう。間違えた時にはしっかりと叱ってくれる大人が必要なんだ。お前らぼくが担任でよかつたな。勉強も、どこかの先生は自主性にまかせると言うかも知れないが、受験に失敗して泣くのはお前らだ。いいか、一年後は共通一次だ、一年なんて先だと思うだろうが、あつという間だからな。この宿題はぼくの優しさだと思え。

サンゴ 練習熱心ですね。

ヒジキ あ。

サンゴ それ今日喋るんですか？

ヒジキ はい。

サンゴ オレと二人で立って？

ヒジキ はい。

サンゴ ヒジキ先生、オレのこと嫌いでしょう。

ヒジキ あれ、バレました。

サンゴ バレますよ。オレも先生のこと嫌いでもん。

ヒジキ 傷つくなあ。ぼくはサンゴ先生のこと、嫌いでしたけど、尊敬してましたよ。

サンゴ それはどうも。

ヒジキ 理解は出来ませんけどね。さすが新人類のために、仕事を棒に振るのは。

問。

ヒジキ サンゴ先生が許可したわけじゃないんでしょう？

サンゴ すみません、ご面倒をおかけします。

ヒジキ ぼくは構いませんよ。仕事ですから。

サンゴ 仕事ねえ。先生に夢ってありますか？

ヒジキ ありますよ。三〇までに学年主任になって、四〇までに校長になります。

サンゴ 具体的ですね。先生らしい。

ヒジキ 校長としては、価値観の違う先生にってもらったほうがいいんですけどね。社会に出ればいろんな人間がいますから。

サバ、タイシユウ、カップ、ハンマー、ヒカリ入場。

サバ なんだよサンゴ、朝っぱらから呼び出しやがつて。

サンゴ すまんすまん。お前らには先に言っておこうと思って。急な話だが、二学期でこの学校をやめることにした。三学期の担任はヒジキ先生がやっ
てくださる。

ヒジキ ヒジキだ。

カップ、ハンマー

えー。

サンゴ サバ、カップ、ハンマー、面倒をかけるんじゃないぞ。

ヒジキ ぼくは甘くないからな。覚悟しておけ。

サンゴ タイシユウ、サッカー部頼んだぞ。

間。

サバ オレのせいか。

サンゴ 違う、おれが自分で決めたことだ。

サバ ウソつけ。お前がやめるならオレがやめてやる。

ヒジキ 口を慎め。お前が学校やめたらサンゴ先生どんな気持ちになると

思うんだ。

タイシユウ 本当なんですな。

サバ なんて関係ないサンゴがやめなきゃならないんだよ。

ヒジキ お前が自分勝手なことをすれば、周りに迷惑がかかるんだ。

タイシユウ 国立はどうするんですか。

サンゴ すまない。自分に嘘がつけなくなっちゃった。タイシユウ、お前
がいま、本当にやりたいことって、なんだ？

間。

サンゴ　ちつぽけな街だよな。ここ。東京までも遠いし、かといつて出て行くには便利すぎるし。ちょうどいいんだよな。適当に知ってる連中がいて、たまに知らない奴らもいて、何が面白いのかわからないけどゲラゲラ笑ったり、なにが気に入らないのかケンカしたり。このちつぽけさ、大嫌いだ。いつの間にか、オレの夢は冬の国立なんだって思い込んでいた。かなえられそうな夢だけ見るようになっていた。

間。

サンゴ　ワールドカップで日本を優勝させる。三〇年かかるか四〇年かかるか分からないけど、やってみるよ。教師としては、お前は卒業したほうがいいと思ってる。オレ個人としては、イタリアに行つて、マラドーナを越えてきてほしい。

タイシュウ　そりや、イタリアに行きたいです。けど。

サンゴ　ヒカリ。

ヒカリ　あのととき、勝手にぼくの思いを押し付けて、ごめん。

タイシュウ　いや、おれも。ごめん。

カップ　オレも、ごめんね。

ハマー　じゃあオレもごめん。

カップ　なんで謝つてんだよ。

ハマー　なんとなく。

ヒカリ　ファンドのお金はぼくのところにあるんだ。どうしようか悩んでる。でも、やつぱり、タイシュウくんの気持ち次第だと思つて。タイシュウくんはどうしたいの？

間。

タイシュウ　冬の国立が終わつて、それからでもいいかな。

ヒカリ　もちろん。ファンドはあれからも続けてて。この二ヶ月、先生方

の応援も受けて、なんとか目標の二〇〇万円になった。

ヒジキ　　ぼくの前でいい度胸だな、と言いたところだが、学校側の許可までとってるんだから、なんの文句もない。

問。

サンゴ　　サバ。ありがとう。お前のおかげで人生狂ったぞ。安定安心の教職から、何の保証もないスポーツマンだ。

サバ　　なんか、ごめんな。

サンゴ　　オレはサバのせいで学校をやめるわけじゃない。もともとやめようと思っていたんだ。だから気に病むな。

サバ　　無理だよ。

サンゴ　　気に病むくらいなら、最初からトップに立とうとするなよ。お前はオレに卒業すると言ったのに、退学スレスレのことばかりした。大した考えもなく友だちを危ない目にあわせて、高校生の身に余る借金をした。教えてくれ。お前にとって、トップに立つって何だったんだ？

問。

サンゴ　　宿題だ。

サンゴ、退場。ヒジキ、それを追って退場。タイシユウ、ヒカリ、カッパ、ハマーはサバを見ている。サバは遠くを見ている。

一〇場

二〇一五年一二月。

トビウオとシャークがいる。

トビウオ　　シャークさん、これなんなんすか。

シャーク、不敵に笑う。

トビウオ ライブでもやるんですか。でも、オレ飛ぶ予定なんですけど。

シャーク、トビウオにスツパイマンを渡す。

トビウオ あざす。すつぱい。けど、いい天気ですよね。風もないし。三度目にして絶好の飛行日和だ。

サバエ、入場。

サバエ お、理事長、お疲れ様です。

トビウオ 理事長？

サバエ なんだきみ、知らなかったの。

トビウオ シャークさん、理事長だったの？

シャーク、恥ずかしそうに笑う。

トビウオ 用務員さんじゃないの？

サバエ 仕方がない。オレも高校生のときはそう思っていた。あいつら来た？

間。

サバエ まあ気落ちするなよ。きみの人望がないだけだ。

トビウオ うるせえ。てかこの機材あんただろ。「なぜ分かった」

サバエ なぜ分かった。お。

トビウオ 飽きた。別の考えとけ。

クジ、入場。

クジ (機材を見て) うわなにこれ。

サバエ よく来たな、クジ。見ての通りだ。楽器とアンプだよ。

クジ、退場しようとする。

トビウオ 待って。あのときは、ごめん。

間。

トビウオ それで、自分で直してるんだけど、もう二回失敗してる。今度もいまいち自信がなくなつて、クジに見てもらえたら安心なんだけど。

クジ、しばしの間のあと、ロケットベルトに近づき、見る。作業をはじめめる。

クジ チェックする時間をくれ。

トビウオ もちろん。

間。

トビウオ ごめんなさい。

クジ ぼくに謝られても。

間。

クジ なんで飛ぶの？

トビウオ え？

クジ いまさら飛んでも意味ないじゃん。イワシタはこいつの話をする

だけで人相が変わる。

トビウオ うん。いまだに無視されてる。

クジ それでも飛ぶの？

トビウオ うん。

クジ なんで？

トビウオ 分からない。

間。

クジ 自己満足だよな。

トビウオ そうだね。

クジ トビウオがやりたいなら、やればいいじゃない。

トビウオ そうか。そうだよな。

間。

クジ (ロケットベルトから離れて)制御プログラムが初期化されてる。

もともとアライメントが対称じゃないから、基本設定だと安定しないんだ。これじゃ飛べるわけないよ。

トビウオ そうなんだ。気が付かなかった。

クジ でも、あとは問題ない、と思う。ここまで直すの、大変だったでしょ。

トビウオ クジ、ありがとう。イワシタは、なにか言ってた？

クジ いや。ぼくも来る気なかったし。今日のこととはなにも。

トビウオ 分かった。じゃあ、今度こそ成功させよう。

トビウオ、ロケットベルトを装着する。

ハマー、カッパ、入場。

サバエ トビウオはさ、あきらめが悪いよね。

トビウオ なんすか。

サバエ オレ、けつこうあきらめ早いんだなって思った。

トビウオ 意味分かんないす。誰すか、このひとたち。

サバエ、カッパ、ハマー 気にしないで、気にしないで。

クジ 気になります。

サバエ オレのバンドのメンバーだ。コンサートしようと思つてな。

トビウオ 今？

サバエ 悪いか。

トビウオ 悪くはないけど、飛ぶよ？

サバエ きみは飛べばいい。オレは歌うから。

トビウオ 今じゃなくてもいいじゃんか。

クジ いいよ、無視してやろうぜ。

トビウオ 見られてるとやりづらい。

クジ ムシムシ。

トビウオ お前見られてたら飛べないとか言つてなかったか。

クジ トビウオくんはぼくらとは違うから、いけるでしょ。

トビウオ このやろう。

サバエ ワールドカップに日本が初めて出場したとき、あいつら執念深いなって思ったんだよね。一度や二度コケたくらいじゃあきらめない。そういう執念深さ、いいよね。

問。

トビウオ オレがしつこくなつたのは、サバエがうるさくからんでくるからだよ。もう飛んでいいすか。

サバエ 飛べ飛べ、飛んじまえ。オレの視界から消えてなくなつちまえ。

オレはいま、ちつぽけな自分を許す。誰かに評価されたかった、人気者になりたかった、仲間に迷惑をかけた、自分を許す。トップに立つてことは、他の誰かさんが決めることじゃない、オレが決めることだ。誰にも分かつてもらえなくても、オレの心が赴くままに、オレがオレを好きでいられるように。オレ

はオレのために、お前らが盛り上がる歌を歌ってやる。これからこいつが空を飛ぶ。ちつぽけなこいつは、自分のわがままで空を飛ぶ。おれは、誰が嫌おうが、誰が憎もうが、こいつのわがままを、全力で応援する。オレはちつぽけなこいつに、宿題の答えを教えてもらった。お前の夢はなんだ。宿題だぜ。ルーフトップ・コンサート。スタート。

サバエ、トビウオにマイクを渡す。

校庭にイワシタが現れ、屋上を見上げる。

「小さな奇跡」演奏。

トビウオ、空を飛ぶ。みんな、それを見上げている。イワシタ、目を伏せて、退場。

おわり

「AND」作詞 首藤健祐

上演記録

東京ハートブレイカーズ「スーパーエンタープライズ」

二〇一五年四月二九日（水・祝）〜五月三日（日）

吉祥寺STAR PINE, S C A F E

脚本・演出

黒澤世莉「時間堂」

出演

トビウオ・サンゴ

山崎彬「悪い芝居」

イワシタ

西井幸人

クジ

永嶋柊吾

サバ・サバエ

首藤健祐

カッパ

みのすけ「ナイロン100℃」

ハマー

西山宏幸「ブルドッキングヘッドロッ

ク」

タイシユウ

ヒカリ

ヒジキ

シャーク

萩野崇

岡田達也「キャラメルボックス」

小多田直樹「キャラメルボックス」

石川よしひろ

楽曲提供

東京ハートブレイカーズ・THE AP

OLLOBOYZ

上演にあたって

上演許可は左記までお問い合わせ下さい。

合同会社 Level 19

電子メール

info@level19.net

発行元

黒澤世莉 二〇二一年七月三日